

生活背景着目し支援を

カジノを含む統合型リゾート（ＩＲ）実施法が昨年7月に成立し、ギャンブル依存対策に注目が集まっている。2007年から「浦和まはる相談室」でこうした相談を受けてきたさいたま市の精神保健福祉士、高澤和彦さん（56）は、表面的なギャンブル依存対策だけではなく、当事者がもともと抱える背景事情に着目し、個別に対応する必要性を訴えている。

【中川友希】

「ギャンブル」という言葉にとらわれずに、一人一人から多くの相談が寄せられている。柔軟に支援を考えることが重要だ。今月12日、ギャンブル依存からの立ち直りを支援する市民団体が開いたセミナーで、高澤さんは約80人を前に強調した。

高澤さんの相談室には、パチンコなどのギャンブルにのめり込むことによって日常生活や社会生活に支障が生じている状態とされる。国内では昨年7月、ギャンブル等依存症対策基本法が成立。国や地方自治体にギャンブル依存症の問題についての教育に取り組み、相談支援を充実させるよう求めている。

ギャンブル依存症
パチンコなどのギャンブルにのめり込むことによって日常生活や社会生活に支障が生じている状態とされる。国内では昨年7月、ギャンブル等依存症対策基本法が成立。国や地方自治体にギャンブル依存症の問題についての教育に取り組み、相談支援を充実させるよう求めている。

勤務先の小売店で店長に昇進して業務が複雑になり、頼まれた仕事や飲み会の誘いを断れず、ストレスをギャンブルで発散していたという。男性は転職した。複数の業務を任せられず、人間関係でも適度な距離を保てる仕事だといいい、相談から約1年後にギャンブルをやめた。男性は取材に「ギャンブルにのめり込む要因となった自分の特徴は、治すかどうかという問題ではない。どう付き合っていくかだと思った」と振り返る。高澤さんは、これまでの生活状況を丁寧に聞き取る。「中高生のころ、部活

勤務先の小売店で店長に昇進して業務が複雑になり、頼まれた仕事や飲み会の誘いを断れず、ストレスをギャンブルで発散していたという。男性は転職した。複数の業務を任せられず、人間関係でも適度な距離を保てる仕事だといいい、相談から約1年後にギャンブルをやめた。男性は取材に「ギャンブルにのめり込む要因となった自分の特徴は、治すかどうかという問題ではない。どう付き合っていくかだと思った」と振り返る。高澤さんは、これまでの生活状況を丁寧に聞き取る。「中高生のころ、部活

さいたまの相談室 高澤さん訴え



ギャンブルの問題を抱える人への支援について語る高澤和彦さん—横浜市瀬谷区で

で友達とうまく関係を築けていなかったか」。その特徴に合わせて、具体的なアドバイスをする。金銭管理が

苦手な人に、使えるお金を期間ごとに小分けにすることを提案したり、時間の使い方が分からない人にはジョギングなどの日課を勧めたりするという。一人一人の特徴を把握し、本人が暮らしやすい環境を整えることが大切だ」と話す。浦和まはる相談室の詳細はホームページで。